

会 議 録				
平成 20 年度第 10 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 21 年 3 月 18 日 (水) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分	場 所	小金井市役所 暫定第八会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	井土、伊藤、浦野、倉持、小林、武田、田中、彦坂 各委員 (欠席) 田尻、本川各委員		
	その他	渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、林スポーツ振興課長、田中図書館長、中嶋公民館長		
	事務局	木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 報告事項				
(1) 平成 20 年度都市社連協第 2 回理事会について				
(2) 平成 20 年度心身障害児学校外活動委託事業について				
(3) 平成 20 年度市史編さん事業について				
(4) 第 2 次小金井市子ども読書活動推進計画 (素案) について				
(5) 阪南公民館運営研究協議会の視察研修について				
(6) その他				
2. 協議事項				
(1) 平成 21 年度小委員会について				
(2) その他				
1. 報告事項				
(1) 平成 20 年度都市社連協第 2 回理事会について (伊藤委員)				
<p>報告事項のほうでは平成 20 年度第 50 回全国社会教育研究大会並びに第 39 回関東甲信越静社会教育研究大会についてということで、長野県で行われ、当市からも 3 人出席した。10 月 29 日から 10 月 31 日まで、3 日間にわたって長野県の県民文化会館で行われ、29 日が全国大会、30 日は市内 7 カ所に分かれて協議会が行われた。31 日はシンポジウムであった。同じく平成 20 年度全国社会教育委員連合第 2 回総会については期間中、10 月 30 日に午後 3 時半から午後 4 時半まで、1 時間にわたって総会が行われた。議案としては、20 年度の補正予算並びに、今度 51 年度回に行われる全国大会・熊本大会と、52 年度の全国大会・福島大会、53 年度の全国大会についてその場で議案どおり決議された。平成 20 年度東京都市町村社会教育</p>				

委員連絡協議会の交流会について、昨年11月22日に清瀬の市民ホールで行われた。研究大会には75名の参加で、交流大会は182名が参加。この交流大会は一部、二部と分かれており、一部のほうは式典や来賓の祝辞、表彰式、第二部が各ブロック研修会の実施報告とパネルディスカッション。次に、協議事項として、平成21年度の東京都市町村社会教育委員連絡協議会の統一テーマについて。次期幹事市が東久留米市から統一テーマの案について発表があった。統一テーマは「地域の特色を生かせる社会教育～世代を超えて学びあうまちづくり～」ということで、これも全員拍手で異議なしということであった。平成21年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会の定期総会が4月18日午後1時から、場所が清瀬市の児童センター「ころぼっくるホール」で実施予定。総会終了後に社会教育委員研修会で、講演会が予定されている。

(2) 平成20年度心身障害児学校外活動委託事業について

(尾崎生涯学習課長)

学校週5日制により休校となる土曜日に心身に障害のある児童・生徒を対象としてスポーツ活動、文化活動等の事業を実施し、豊かで充実した地域活動の促進を図ることを目的に実施している。市が小金井市学校五日制の会に事業を委託して実施している。この事業は東京都の障害者施策推進区市町村包括補助事業で、都から2分の1の補助をもらって実施している。今年度は、水泳教室が記録会を含めて13回、その他、Jリーグ観戦、エアロビクス、イチゴ狩り、バンドコンサートを実施している。3月7日に今年度最後の水泳教室、記録会を行い、今年度の事業がすべて終了したところである。

(3) 平成20年度市史編さん事業について

(尾崎生涯学習課長)

今年度は市制施行50周年を記念して、郷土かるたを2,000部作成した。これはワンセット500円で販売しており、評判もよく、結構売れている。また、小金井市史資料編『小金井桜』は、名勝小金井桜に関する江戸時代から先年までの文書や文献、新聞記事等を収集した資料集で、小金井市史の字が、歴史の市になってからの第1作目としての発行したものである。江戸・東京の行楽地としてにぎわった小金井桜堤の花見の様子や地域の発展を果たした歴史的な意義を具体的に知ることができる資料集である。A5版の約900ページに及ぶもので、1,000部作成している。1冊2,400円で販売する予定。『写真でたどる昭和の小金井』は市内100地点の昭和と現代を対比したCD-ROM版写真集である。何げなく写した日常の風景写真も、時代が経ると貴重な歴史資料となるということがよくわかる。1枚500円で販売予定。

『小金井市誌編纂資料』第48編であるが、これは市の保管文書、明治から大正時代のものをまとめたもので、行政資料として編集したものである。一部500円で売っている。

(4) 第2次小金井市子ども読書活動推進計画（素案）について

(田中図書館長)

現在の小金井市子ども読書活動推進計画が、平成20年度で終期を迎える。よって、引き続き子どもの読書環境の充実を図るため、第2次計画を策定することとした。そのため、昨年7月18日に図書館をはじめとして指導室、学務課等、関係10課により第2次小金井市子ども読書活動推進計画、庁内検討委員会及びその下部組織である作業部会を設置し、作業部会を中心に計画を策定してきた。作業部会では、計7回の審議、図書館協議会からの意見聴取、読書関係市民団体説明会、庁内検討委員会の開催を経て、それぞれの意見を反映させ、素案をまとめた。第2次計画の特徴としては、国が平成20年3月に新たに示した子ども読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）を参考にして第1次計画を振り返り、成果及び行き届かなかった事業を点検し、より幅広く子どもの読書活動の充実に努めるため記述した。第1章では策定の目的を掲げ、2ページから5ページにかけては国の子ども読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）を引用しながら国と市の成果、不読者率の減少、児童への貸出冊数の増加、司書教諭の配置、全国一斉読書活動などを挙げ、5ページで第2次計画の重点課題として、図書館及び学校図書館で一層の充実を掲げている。第2章では、第2次策定に当たっての基本的な考え方を示している。第3章では家庭・地域、図書館、学校・学校図書館、生涯学習にかかわる諸機関、保育園・児童館等子どもとかわりのある諸機関に分け、それぞれ具体的な取り組みを記述している。第4章は取り組み項目と目標年度である。それぞれの施策の年度ごとの目標を検討、実施、充実、継続の4つの段階で示した。重点施策としては、19ページの(13)学校図書館との強力な連携、(14)学校図書館のコンピュータシステム導入に向けた支援、20ページの学校・学校図書館の(10)学校図書館へのコンピュータシステムの導入について、を挙げている。図書館から学校図書館の支援については、今後、学校図書館関係者との連絡会を設け、具体的に何を必要としているかを検討したい。学校図書館は、冊数の図書標準は達成しているが、質的な充実が今後望まれる。蔵書管理などがいまだ手作業の段階であるため、今後の充実のためにはパソコンによる貸出、返却、検索などが深くかかわってくる。今後のスケジュールであるが、現在、市報3月15日号でパブリックコメントを1カ月間、4月15日まで実施している。市報5月1日号にて市の考え方をお知らせし、5月12日開催予定の教育委員会に案件として提出し、承認の後に公表の予定。なお、第2次計画については、20年度内の策定が遅れているため、6月末まで延伸しているが、第2次計画が公表された段階で第1次計画は終了とする。

(田中議長)

こういった計画にかかわる21年度の予算というのはどうなっているのか。

(田中図書館長)

策定したばかりなので21年度予算には特段盛り込まれてはいない。具体的には22年度からの予算ということになる。

(田中議長)

計画は推進されるが、裏づけは1次の予算計画を更新してやるということか。

(田中図書館長)

すべての計画が予算を伴うわけではないので、21年度については第2次計画に沿っていろいろな目標を定めていただいた。予算が生じるものについては22年度について予算措置という考え方である。

(井土副議長)

図書館の本を傷める人が多い、生活のために本を盗んで売りにいくというような話もあると聞いたが、小金井市はそういったことはあるのか。

(田中図書館長)

図書の本は2年に一度、蔵書点検というのをやっている。前回行ったときは約1,800冊の本が紛失していた。ただ、その本が売られているかどうかというのははっきりしない。本の傷みぐあいは市民の方の利用状況によるので、特段小金井図書館が多いというものではないと思っている。

(5) 阪南公民館運営研究協議会の視察研修について

(中嶋公民館長)

3月9日(月)午後1時45分から4時、公民館緑分館学習室で大阪府内の阪南公民館運営協議会加盟の岸和田市公民館から1名、貝塚市公民館から3名の4名が来館した。全国機関紙「月刊社会教育」1月号に本市市民講座、「新しい公民館活動を考える」を掲載したところ、本市公民館の「実践に学ぶ」を研修テーマとして市民講座企画の経緯、実施後の成果、公民館が直面している課題解決について、講座でプレゼンテーションをした企画実行委員等3名と職員7名が参加して、公民館との出会い、公民館に期待すること、要望、提言、公民館の役割について説明をした。また、貝塚市には3地区間あり、17人の職員がシフト体制で夜間も含めて対応し、岸和田市は19地区間があるが、実情として高齢者学級で市民参加を検討しても、職員の仕事ということで市民が事業企画にかかわっていないという話があり、特に本市の企画実行委員制度について、委員と職員のかかわり方、準備会の募集、過程などについて熱心に質疑をしていた。今日的な課題の取り組み方、新規の利用者の利用拡大と広報手段の工夫など、都市型公民館が直面している共通の課題についてともに学び、課題解決への糸口を探した。なお、当日は緑センターに宿泊をし、職員同士で東京と大阪の公民館事情、職員研修、地域実情などについて意見交換を行い、翌日は品川区内での視察研修に向かった。

(6) その他

・平成21年度の生涯学習部門の予算状況について

(渡辺生涯学習部長)

平成21年度予算については、3月3日から4日にかけての市議会で可決された。一般会計では、前年度に比べて5.2%の減。要因は再開発事業がかなり進んでいるので、多少減が出るということで、基本的なものは何か大幅に減ったという状況ではない。市全体としては、特別会計を含めて3.9%減ということになる。歳入前年度比較だが、市民税が4億9,800万ほど前年度に比べて落ち込みがある。この要因は、20年度の予算見積もりの中で少し過重に盛り込んだのが2億円ほど、それにプラスしてサブプライムローン以降の経済状況が落ち込むだろうというところを反映して4億9,000万の減ということである。固定資産税については、逆に2億3,000万ほどの増額になっているが、これは3年に一度の評価に当たる年であるので、若干増額が見込めるということである。市たばこ税は1億2,000万と大幅な落ち込みがある。要因は禁煙の増加、自動販売機のタスポ導入による落ち込みがあるのかと思う。全体では21年度に関してはさほど大きな影響はないと見込まれる。ただ、22年度以降、本格的に今回の経済状況が反映されるだろうということで、22年度以降はかなり厳しい予想がされている。生涯学習部の前年度比較であるが、社会教育費と保健体育費に分かれている。社会教育費は前年度2,600万ほど減額。保健体育費は1,200万ほど減額、合計3,800万の減になる。市の主な財政指標だが、人件費比率は平成9年度のときは33.4ということで、これは東京都の多摩地区で最下位、平成7年度、8年度は全国でのワーストも記録している。18年度に大幅に24.1と下がっており平成19年度については23.9と下がり小金井市ではベスト値である。各市の平均値でいえば19.7ということで、まだ小金井市は平均と比べても4%多いという状況である。経常収支比率は、小金井市も目標数値は80%後半である。80%後半という数字は、全国的に見てもかなり財政状況に弾力性がある状態。平成19年度では92.3、26市では11位とかなり数字的には改善をされている。財政の弾力性は維持されているということになる。財政力指数は、1を超える自治体というのは全国的にもそんなに数が多くないので、小金井市は、19年度1.129という数字で、25市の中でも上位クラスに入る。地方債の残高、借金の残額であるが、小金井市は19年度で252億ほど借金がある。この数値は、市の財政力から比べると健全な状態を保っている。似たような指標の中に公債費比率というのがあるが、小金井市は、公債費比率で見ると19年度は8.7という数字である。この数字が20%を超えると危険領域、15%を超えると都の許可がないと起債が発行できないという仕組みである。積立金は、19年度は53億。職員一人当たりの人口は、平成6年度は100.5、平成14年度は130.7、平成20年度は141.6。平成14年度は職員数が1,140人、平成21年度は、4月1日現在で735人。次に生涯学習部の平成21年度、20年度の予算の比較であるが、部全体としては3,800万ほど減額。社会教育総務費が1,600万ほど減額となり、要因としては第2次生涯学習計画がなくなるので240万ほど減。職員人件費が、職員年齢の若年齢化において約700万減、50周年の周年事業が終わったので870万ほど減ということで、1,600万ほど前年に比べて減額

となる。公民館費については、貫井南分館耐震工事4,400万が終わり、緑分館の改修工事が21年度に始まるので、その相殺、南分館に非常勤を2人増員するので、その増経費が450万ほど上がり、総体としては3,200万ほど減だが、年度の特殊事情ということで、個々の事業に対する影響はない。図書館費は21年度は570万ほど増額。要因としては、本館児童室の床の改修工事。文化財保護費は1,690万ほど増になるが、文化財センターの空調機の取りかえ、それから倉庫の工事の1,470万ほど増が要因で増額になっている。次の少年自然の家は、清里山荘の維持経費である。これについてはほとんど差がない。保健体育費、保健総務費、こちらは人件費のほうで480万ほど減額になった影響で490万下がっている。次の体育施設費、ここでは760万ほど前年に比べて減額になるが、主な要因は総合体育館の指定管理移行、それから栗山公園の指定管理の移行で、光熱水費などがすべて指定管理費の中に含まれるかわりに、収入である今までの使用料が減額され、総体でプラスマイナス760万。増額の主な要因は、テニスコート場の整備費が新たにつき、これが1,800万ほどと、これらの要因によって積み上げていくと生涯学習部総体では3,800万ほどの減になる。平成21年度主な新規・レベルアップ事業で主なものをここに載せた。20年度予算額がゼロ円のところは新規事業で、その他についてはレベルアップ。青少年のための科学の祭典補助金は20万から50万に増額になっている。放課後子どもプラン事業についても200万弱ほど増額になった。公民館については、緑分館の冷暖房・照明器具の改修で2,400万ほど。それから、本町分館・緑分館菜園事業用に水道敷設工事と書いてあるが、これは畑にまく水道を敷設するというので110万ほど。本町分館の耐震工事が東京都で始まるので、その負担金で98万。図書館については、本館児童室の床改修と、オンデマンド監視装置取り付け修繕。スポーツ振興課のほうは、先ほど言った指定管理料が2点。それから、正面玄関の北側の外壁タイルの改修工事が予算化されている。総合体育館大規模改修調査ということで、調査費が500万。テニスコートは1,800万。栗山公園のプール環水槽が400万弱。サンクンガーデン防護ネット設置工事が440万ほどの予算がついている。

こういったものが主な事業と主なレベルアップ事業である。平成21年度の予算概要については以上である。

(浦野委員)

21年度の放課後子どもプラン事業も少し増額になっているが、具体的な内容がわかれば教えていただきたい。

(尾崎生涯学習課長)

平日の放課後子ども教室もこれから増えていくだろうということもあり、増設分が上がっている。安全管理員の単価が、今まで2時間で計算していたが、3時間分として安全管理員の契約で少し増額した。

(小林委員)

スポーツ振興課の総合体育館大規模改修調査500万とあるが、調査期間はどのぐ

らいなのか。

(林スポーツ振興課長)

今のところ特に調査期間の想定はないが、これから調査の仕様というものを詰めていく形になる。建物の劣化、それから設備の劣化等について調査して、それ以降の改修計画の参考にする。

・スペシャルオリンピックス世界大会の入賞について

(尾崎生涯学習課長)

学校五日制の会OBである太田雄大君が、先日、アメリカ合衆国のアイホダ州で行われたスペシャルオリンピックス世界大会のスキーのスーパーGで第3位、ジャイアントスラロームで第4位、スラロームで第5位と、いずれも入賞したということで報告があった。スペシャルオリンピックス世界大会とは、知的障害のある方の世界大会で、どちらかというオリンピックよりもワールドカップに近いものだと思う。世界180カ国から選手が参加して行われている大きなイベントの一つである。

2. 協議事項

(1) 平成21年度小委員会について

(田中議長)

前回、小委員会についてお話をしたが、21年度の小委員会において適当な議題があれば皆さんのほうから出していただきたい。今年度は5名の委員での開催になるのか。

(尾崎生涯学習課長)

5名の委員で5回の開催の予定で予算措置をしている。4月からすぐに始めなければいけないというものではないので、5回が年度内に終わればよい。テーマが決まった段階で適任者を5名選んでいただいて小委員会の委員とすることになるだろう。テーマとしては1年で話し合うものでも、2年、3年かけても構わない。現在行政としては特段大きなテーマは抱えていないというスタンスであるから、もし委員さんの中でこれというのがあれば優先しても構わない。

(渡辺生涯学習部長)

テーマとして考えられるものとしては、生涯学習部門と市長部局の施設の有効利用を図るために統合なり再配置なり、そういったものがテーマになっているところもあり、今、施設に関しては、集会施設というのは市長部局で11ぐらいある。前原暫定集会所、萌え木ホール、今度新たにできる交流センターというのが市長部局で持っている施設である。そのほかの集会施設は、公民館で持っている各分館と本館の施設、図書館にある学習室、体育施設等である。今、各市いろんな動きがあって、市長部局に全部統合している市もあるが、26市でいえば4市ぐらい。今後検討するというのは5市ぐらいある。ほかは、まだ検討もしていないというところである。

もう1つは、総合体育館の指定管理に絡めて、スポーツ振興条例あるいはスポーツ審議会、スポーツ振興計画が議会に出ているが、それが採択をされている。そのため、市では何らかの検討をして議会に報告する必要がある。この辺のところは、また次回、4月に整理をさせていただいた上で報告するが幾つか陳情が採択されている。

(田中議長)

今、キーワードに出てきたようなスポーツ施設や交流センター等を含めた施設をどういうふうに運用していくのかとか、今後、新しい施設をつくる場合については、一つの考慮せざるを得ないところだ。特に中高生の居場所が大事だと言われるが、運営も難しいし、施設そのものが小金井は他市に比べたらかなり劣っているの、そこまで手が入っていないという実情である。

小委員会の題目については、4月にまた行政のほうから、いろんな資料も出るということなので、それを見ながら決めていきたいと思う。先ほどあったが、5名、5回ということであるので、小委員会を有効に活用し勉強していけたらよい。

(渡辺生涯学習部長)

生涯学習推進計画のような大きなテーマであれば全員参加のほうがよいが、今までの小委員会はテーマをかなり絞り込んでいる。小委員会の中である程度案を出して、全体の中でさらに意見を聞いた上で決定をするほうが機能的かと思う。

(2) その他

- ・平成21年度の放課後子どもプランに係る運営委員の推薦について

(尾崎生涯学習課長)

現在、社会教育委員からは小林委員に運営委員を勤めていただいているが、年度が変わるので、来年度の社会教育委員推薦の委員さんを1名またご推薦いただきたい。

[20年度に引き続き小林委員を推薦することに決定した。]

以上